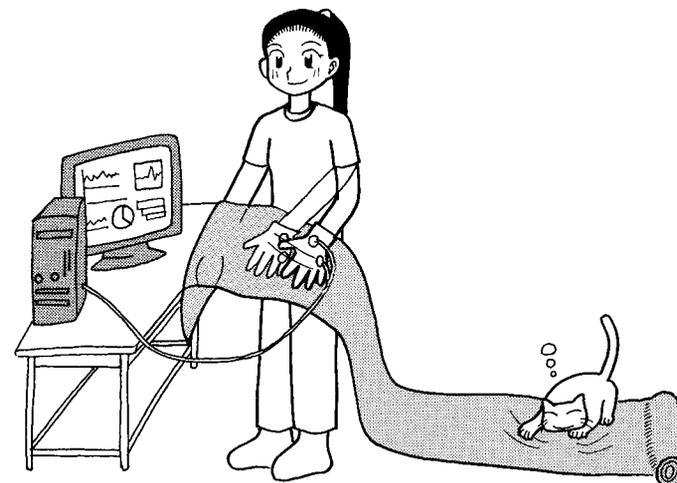


# 繊維製品の肌触り評価のための接触特性計測システム開発に関する研究

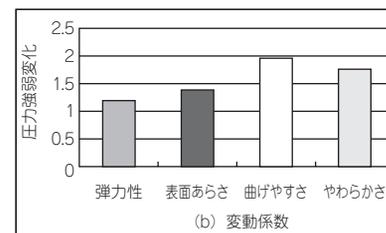
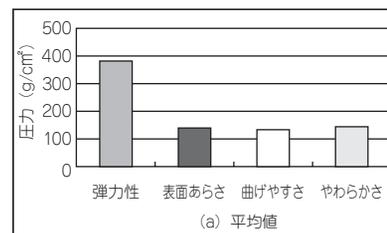
研究代表者 信州大学 上條 正義

本研究は、繊維製品の肌触り（風合い）計測システムを開発するための基礎研究として、ヒトが手指で布の風合いを評価するときに、どのような触診動作を行って風合いを評価しているかについて検討しています。そのために、圧力分布測定センサや加速度センサを装着したセンサ・グローブを試作しました。そして、大学生30名がこのグローブを手指に装着して布を触り、布の風合いを表現する代表的な形容語（柔軟性、表面あらさ、押し硬さ、曲げやすさ）を評価しました。

その結果、布の表面あらさを評価するときには手指の腹全体を布へ接触させて布上を長く移動していること、弾力性を評価するときには他の評価形容語と比べて布の厚さ方向に対して大きな荷重を加えて評価を行っていることを明らかにしています。また、布の風合いの違いが分かる弁別能力によっても布の風合い評価を行うときの手指の運動が異なることも明らかにしています。この研究成果を繊維製品の肌触り計測システムに応用できれば、将来肌触りの客観的評価が可能となります。



ヒトは、布上で指をすべらせまたはおさえて布の肌触りを評価している



布の風合い評価時の人差し指の指先の力の加え方の違い